

神々の住む島、楽園...バリにはいくつもの日本で失われつつある風景がたくさん残っている。

バリには田園風景が多い。街の中心部は観光地化されているが、少し道を走れば目の前には見渡す限りのライステラス(棚田)、森林が広がっていた。

また、そこに存在する建物も石や木、土といった部材で造られ、無理無く自然と調和が取れている。

今回ウブド地区で宿泊したホテルは各戸独立したヴィラタイプ。

ヴィラのテラスに出ると、見渡す限りの田園が広がっている。景観と建築物の融合をテーマにし、自生の木々をそのまま残した溪谷と共生するように、ヴィラがレイアウトされている。

バリでは自然との暮らし方、また、自然の中で過ごすことがどれだけ心地良いかを改めて感じさせてくれた。これからの現代建築の中にいかに自然な形で、緑を上手く取り込めていけるか考えていきたい。

